

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.129

平成27年度の消費生活相談報告

◆相談件数 344件(前年度比20件減)

相談件数の前年度比は若干の減ですが、多様な相談内容となっています。また、昨年に引き続き60代以上の方からの相談が多い傾向にあります(全体の約48%)。

◆相談の主な概要

【インターネット情報サービス(34件)】

出会い系サイト、アダルトサイト等、有料であると認識がないまま登録になり利用料を請求される。被害回復しようとして、二次被害に遭うケースも目立つ。

【融資サービス(29件うち多重債務22件)】

【インターネット接続回線(18件)】

光回線・プロバイダ等で、大手電話会社と勘違いして通信料金が安くなると電話勧誘され口頭で契約成立。遠隔操作で切替えられてしまう被害が急増。

【健康食品(12件)】

1回分を得々コースで申し込んだら定期購入になっていたなどのトラブルが増加。
※不審に思った時は、お金を支払う前に消費生活センターにご相談ください。

おもてなしコラム ③

西脇市では、平成28年1月に「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。地域食材の魅力について認識を深め、その魅力を広く発信し、本市にさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課(市役所内線323)



Navel Burger Stars
河野素子さん

「地産地消」で西脇の魅力発信

道の駅を訪れた時、たくさんの新鮮な地場野菜を見て、自分が求めているものに出会った気がしました。

そして、「地産地消」という言葉をよく耳にするようになり、道の駅という地域のランドマークとなる施設を生かし、西脇市の魅力を発信できるチャンスだと思ったことがきっかけでUターンし、西脇市の道の駅でお店を始めました。

実際、市民の方も地場野菜や黒田庄和牛を日常的に口にされている方は少なかったと思います。

特に黒田庄和牛は高級でハードルが高いイメージがあり、わたし自身もこのお店を始めるまで食べたことがありませんでした。

そこで手軽に食べてほしいという思いから「黒田庄和牛×地元野菜バーガー」が誕生しました。

また、地域食材以外にUターンして初めて気付いた故郷の魅力も少なくはありません。そんな魅力をおもてなしのツールとして使用し、市内外のたくさんの人に伝え、一人でも多くの方に西脇ファンになってもらえるよう頑張っています。



▲西脇消防署での職業体験(昨年のトライやる・ウィーク)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

中学生が職業体験「トライやる・ウィーク」を実施

「トライやる・ウィーク」は今年で19年目を迎えました。今年には市内4中学校の2年生が、6月6日(月)〜10日(金)の5日間、市内(一部は市外で実施)の120カ所の事業所にご協力いただき実施します。元氣いっぱい2年生に温かいご声援と応援をお願いします。

トライやる・ウィークは、職業体験などを通して中学生が自分たちの生き方を見つけられるよう「心の教育」として平成10年に始まりました。

「トライやる」という言葉には、挑戦するの「TRY」とともに、「学校・家庭・地域の三者」という意味が込められています。

西脇トライやる「オリジナルワッペン」をつけて活動

今年の「トライやるワッペン」は、富田美咲さん(黒田庄中学校2年生)のデザイン。2年生の干支である午と未をモチーフに、黒田庄中学校の2年生の皆さんにデザインを



黒田庄中学校2年生
富田美咲さん

考えていただきました。

バンク登録ありがとうございました

2016年にバンク登録をいただいた事業所は、130カ所。中学生の希望により活動場所を決定したため、ご厚意にお応えできなかったことをお詫びいたします。来年度も、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

地域に活かす

「トライやる」アクション活動場所を募集しています

市内の中学生が地域の皆さんと一緒に、地域の中でさまざまな体験活動ができる場をご提供ください。

▽期間 土・日曜日、または長期休業中

▽対象 中学1〜3年生

■問合せ 学校教育課(市役所内線527)

心のスケッチ

88

人権教育室コラム

「自分を大切にできる子どもたち」を

新年度になり2カ月が過ぎ、学校園では子どもたちの元気な声が響き渡っています。時には友達とけんかをすることもあるでしょう。友達と力を合わせて学校生活を送り、仲間や集団の中で心豊かに育ちゆくこと、互いのきずなが深まっていくことは、保護者の方や学校の教職員にとって大きな願いです。

子どもたちが自分のことを大切にできる気持ちを自尊感情と言います。この自尊感情はぐくむことについて考えてみましょう。

幼少期から、保護者や周りの大人たちに大切にされ、愛情を受けて慈しまれて育つことは大切であると言われます。なかでも、どのような言葉かけを受けて育つのか、周りの人たちがどのような態度で人に接しているのかは、その後の生き方や考え方に大きな影響を与えると言われます。

「文化」は、ことさらに意識しなくても自然に身に付いているものを言います。

人権に置き換えると、「困っている方に声をかける」よ

うなことが自然に行われることだと思えます。私たち一人ひとりが、自分と同じように他の人を大切にすることが、自然に行われます。

学校園や家庭、地域で「人権を尊重する文化」を根付かせていくことが、子どもたちの人権を大切にすることにつながると思えます。

その時々言葉かけ、その言葉に、本当に人を大切にしたいのかを、子どもたちは、人に大切にされる経験を通して、自分をより大切に、友達にも優しく接していくこと、でしょう。

一人ひとりが大切にされる社会の実現に向けて、互いの違いを認め合うとともに、対話を大切にしていくこと、ともに力を合わせていくこと、こうした人権感覚あふれる取り組みとは何かを、それぞれの立場で考え、実践していきたいものです。

(人権教育室)

市長からの手紙

西脇を元気に!!

29



西脇市長 片山象二

「友好都市・富良野市」に学ぶ

6月になり、ホタルが飛び交い美しいアジサイが咲く季節を迎えました。今年も多く観光客でにぎわうことを期待しています。

先月10日には富良野市制施行50周年記念式典に出席しました。同市は年間170万人以上が訪れる観光地。農産物も魅力の一つで、ワインやチーズなどの特産品開発に力を入れるなど、「ふらの」というブランドをしっかりと確立してこられました。また、ごみの資源化においても先進的な取り組みを進めています。



富良野市役所1階にある西脇市のPRブース。播州織などが展示されています

中心市街地に年間100万人以上の人を呼び込む「フランマルシェ」、ごみ資源化率91%(西脇市は22%です)のリサイクルセンター、ソフト事業が充実している図書館などを視察してきました。

富良野市とは昭和53年の友好都市親善協定を結んで以来38年間、行政だけでなく市民レベルでの交流を図り、きずなを深めてきました。まちはそれぞれ個性があり、課題もさまざまですが、他市の先進的な取り組みを学びながら、西脇市らしいまちづくりに結びつけていきたいと思えます。このまちに住んでいることを誇れる「西脇市」をともに創っていきましょう。